

あなたにとって 100点満点の 会社とは？

☐会社選びで考えてほしいこと

既に就職活動をしている人も多いと思うが、どのような判断から、会社説明会に参加する会社、面接などの選考に進む会社を選んでるだろうか。有名な会社、大きな会社、成長中の会社、たまたま就職情報サイトで見つけて気になった会社とさまざまな選び方があるわけだが、盲目的に一つの判断軸だけで会社を探すのはリスクだ。さまざまな判断軸を把握した上で、自分にとって本当に大事な軸を見つけておきたい。

ここからは、企業選びにどのような軸があるのか、大枠のところを紹介していこう。

☑100点の会社は存在しない。

何を重視するか評価軸を持つよう

給料が高く、残業が少なく、若いころから大きな裁量権を任せられ、昇進が早く、自分の専門性を活かせる業務上のストレスが少なく、社長に共

感できて、先輩・同僚の社員は優秀で、フットワークが軽く、顧客から感謝され、経営が安定していて、社会に貢献できて、社会的な評価も高く、影響力の大きなプロジェクトに携われる会社——。そんな会社、まず存在しない。

例えば、「先輩・同僚の社員は優秀」な会社では「昇進が早い」ことは難しいだろう。周囲の優秀な社員よりもさらに優秀でないと若いうちからマネジャーには抜ききれない。よほど急成長中の企業で、組織が急拡大する中、マネジメントできる人材が不足しているのなら考えられないことではないが。

このように相反する条件もある。自分の考える「100点企業の条件」の中に矛盾する条件はないか、見つけ直しておこう。

就職活動を始める上でまず覚えておいてほしいのは、万人にとって100点満点の会社は存在しないということ。誰かにとって100点の会社は存在するかもしれないが、見つけるのは至難。基本的に80〜90点の会社に入れたらOKという考えでいた方がよい。

というわけで、就職活動を始める前に「自分が何を優先するのか」という軸を考えておいてほしい。まずは内定を取ることが先決ではあるが、10〜20点の減点は必ず見つかる。どんな評価軸での減点なら納得できるのか、どんな評価軸では減点を認められないのか、そこをあらかじめ明

らかにしておこう。

☑大手かベンチャーか。

10年、20年先のことも考えて

就職先の企業を選ぶ時に、どんな軸で考えれば良いのか。冒頭で挙げた条件は無秩序に列記したものが、ここからは次のような項目別にどんな点を考えてほしいか、触れていこうと思う。

1. 企業
2. 業務
3. 人事制度
4. キャリアプラン

まずは企業の魅力。大手かベンチャーか、業界でどんなプレゼンスの会社か、社会的な評価はいかほどか、社員は優秀か、社風はアットホームか、といった軸が挙げられる。

大手は安定しているがどうしても身動きは重くなりがち、ベンチャーはフットワークが軽いが社会的な信頼は大手と比べると落ちる。会社によって多少の違いはあるが、大手は大手、ベンチャーはベンチャーの特性を多かれ少なかれ持っている。

業界No.1の会社で働けば、営業職なら成績を上げやすいし、No.1ならではの強みを学べ、体得できる。だが挑戦者ポジションにいる2番手以降の会社で働いていた方が、No.1に勝つために、創意工夫が求められる。よりチャレンジングな取り組みが認められやすく、人によってはこちらの方が能力が伸びるかもしれない。企業に関連する軸は、入社した後自力で変えるのは難しい。また、いくらあなたが優秀でも、時代の流れには逆らえない。企業関連の軸については、10年、20年先のことも見据えながら考えるようにしよう。

☑「好き」と「得意」を混同しない。

「好き」なだけで仕事は選ぶな

続いて、業務にかかわる軸。「ものづくりにかかわりたい」「好きな音楽を仕事にしたい」というように、恐らく多くの人が真っ先に考えるのが業務関連の軸ではないだろうか。

「好きなことを仕事にする」のは確かに多くの人にとって夢なのだろう。だが、「好きなことが仕事」と「好きな業務が仕事」は別物。実はどちらかと言うと「好きな(＝得意な)業

務が仕事」の方が望ましいのだ。

なぜかと言うと、「本が好き」な人が出版業界に入っても活躍できるとは限らない。出版業界で求められるのは、売れ筋のジャンルを見抜き、書き手との良好な関係を築く、といった能力。「本が好き」だからといって「売れる本を生み出す」能力が備わっているとは限らず、「本が嫌い」でも出版業界で評価される人材もいるはず。むしろ、「本が嫌い」な人の方が、活字嫌いの消費者に支持される作品を生み出せるかもしれない。

また、思っている以上に重要なのは一緒に働く人など、日々の環境。どんな人と一緒に業務をするのか、日々の業務の中で感謝の言葉をもらえ、やりがいを感じられるのか。そうした日々のモチベーションが何よりも重要になってくる人もいるはずだ。

☑給料が高いのはなぜか。

その理由を考えてみよう

給料などの報酬体系、評価・昇進の制度、教育体制、福利厚生など、人事制度についても考えてみよう。

例えば給料。然るべき理由で、社員のパフォーマンスに応えるために

高額を支払う会社もあれば、過酷な労働環境に報いるために高額の企業もある。また、給料水準が高い会社として原価が掛かる、ということでもある。それぞれの社員がそれだけの給料をもらうだけのパフォーマンスを発揮できているかと意識していないと、会社が苦境に立たされた時に無駄に高給取りばかりで、会社にとっては重荷にしかならない。

額面だけではなく、その報酬体系になっていく意味を考えると。そして新卒入社時の給与はそんなに変わらないので、30歳、40歳になった時の給料はどうなっているか、就職四季報などで調べておくのも良いかもしれない。

いずれにせよ、会社の業績が「主」で人事制度は「従」。基本的に会社の業績が良くなければ人事制度は悪化していくもの。人事制度は最低限のところだけ確認して、あとは会社の将来性を重視することをオススメしたい。

☑すべてに優先するキャリアプラン。

目先の材料だけで判断するな

最後に、キャリアプラン。ここまで挙げてきたどの評価軸よりも優先

すべきなのが、この軸かもしれない。

「バレットの法則」という説がある。全体の大部分は、全体の一部が生み出している、という考え方だ。会社にしても、経営にかかわれる、会社を動かす社員はごく一部。ベストの会社をあえて見送り、次点の会社で確実に「会社を動かす一部」に入るという選択も一つの道だ。

また、自分の価値を高めるため、あえて若いころはやりたくない仕事をやるという選択肢もある。営業職は好き嫌いが分かれるが、若いころに企業の生命線である「お金を稼ぐ部署」を経験しておく、将来的にマネジメント職になって役立つこともある。そういう考えの下、ジョブローテーションを組む企業もあるのだ。最初からやりたい仕事をやれなくても、マイナスイ評価しないこと。目先のことばかり考えず、キャリアプランの展望を踏まえて企業を見ていくことも重要なのだ。

自分にとって大切な軸は何か。現時点で判断しきれないかもしれないが、できるだけじっくり考えて会社を選ぶようにすること。それが将来にわたって悔いのない就職活動を送るコツだ。